

2022 年度（令和4年度）学校評価自己評価表

校番 1	福山市立鞆の浦学園
最終更新日	2022年（令和4年）10月1日

Ⅰ 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の理念のもと、各中学校区・学校は「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ 自 校

前年度学校関係者評価の主な内容	
・学校が進めている取組内容については、概ね肯定的評価をいただいた。	
・開校4年目も、児童生徒の成長のため義務教育学校ならではの取組を積極的に進めていくことを期待される。	
ミッション	
義務教育9年間の一貫した教育を推進し、将来の日本やふるさと福山を支え貢献する人材を育成する。	
学校教育目標	
郷土福山を愛し、心身ともにたくましく意欲を持って主体的に学ぶ子どもの育成 ～ ふるさととの自然、人、歴史、伝統、文化に触れながら、学びをつなぎ深める ～	
現 状	
＜児童生徒＞	
・「ふるさが好きである」児童生徒の割合 91.7%	
・「自分の考えは認められている」81.6%	
・次の4つの「育成する力」が身に付いている、深まっていると回答した割合	
「課題発見・解決能力」84.4% 「情報活用能力」88.2%	
「コミュニケーション能力」92.3% 「郷土愛」90.4%	
・福山ブランド「鞆学」では、子ども達は意欲的に学んでおり自分達のやっていることを積極的に発信する姿が多く見られた。	
＜授業＞	
・「学級は安心して学べる場である」90.6%	
・「学校での学びはよく分かる」89.4%、「考えることは面白い」77.5%	
・「意欲を持って学んでいる」84.0% , 「探究することが大好き」75.2%	
・前期課程の全学年で一部教科担任制を取り入れており、学習意欲の高まりが見られた。子ども達が将来の夢や志を見付けて、その可能性に挑戦し続ける教育内容と教育体制を更に進める。	

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		① 課題発見・解決能力 ② 情報活用能力 ③ コミュニケーション能力 ④ 郷土愛
めざす 子ども像	①	・物事を多面的に見たり、これまでの経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見することができる。
	②	・多様な他者と協働したり、よりよい解決方法を選択したりすることで目的に応じた納得解を導き出したり実行したりすることができる。
	③	・多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。
	④	・多様な他者と協働することで新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解を導き出すことができる。
研究	主題 内容等	「教科・学年の枠を超えた9年間の一体的な教育内容と教育体制の確立」
		続・「探究」の世界にどっぷりつかる！ ～「認知のしくみ」から個人テーマを設定し、学びの質を探究、実を追求する～
めざす授業の姿		学びの土台
		・学校と家庭の学習・生活を繋ぎ、全ての活動に根付く主体性と責任感
		・学園会作成の「幸せの道」を踏まえ、安心して学べる共感・支持的文化
		・「なぜ?」「わからん、教えて!」「やった、わかった、できた!」「もっとやりたい!」などの声がする授業
		・考え、話し合い、そして学び合う、みんなとともに自信を育てる授業

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鞆の浦学園

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	夢と志を育み、可能性に挑戦するための意欲と学び続ける力を付ける。	★	見直し	児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出し、一人一人が自らの伸びや成長を実感できる。	・学びの質を深めるため、ICT機器やプロボノ等の外部人材を積極的に活用する。 ・「幸せの道」の取組内容を深めるため、学級、学園全体で絶えず議論・交流する。	・学びの伸びや成長の具体物（作品や記録等）を学校内外に積極的に発信している。 ・児童生徒アンケート「学級は安心だ」「自分の考えは認められている」の肯定的評価85%以上	□外部人材を積極的に活用できている。 アンケート項目追加「自分の作品を発信できた」76.2% □学期に2回、クラスで「幸せの道」について考える時間を設けた。肯定的評価「学級は安心」90.9% 「考えは認められている」85.4%	4	4	・外部人材の活用を推進し、児童生徒の探究心を高め、キャリア教育につなげていく。 ・学年の実態に応じて「幸せの道」の振り返りや見直しを常に行う。改善に向け、学級を越えて議論する場を設定する。					
1	「ふるさと鞆・福山」への愛着と誇りを育み、より良い町づくりに貢献できる。	★	継続	より良い町づくりを、SDGsと関連付けて考え活動を選び行動できる。(自己選択・決定)	・ふるさとをテーマに課題発見・解決学習を進め、取組や学びを積極的に発信する。 ・一人学びと協働学びをバランスよく効果的に設定する。	・児童生徒アンケート「ふるさと大好き」「SDGs達成に貢献している」の肯定的評価85%以上 ・児童生徒アンケート「探究大好き」の肯定的評価85%以上	□「鞆学」を中心に様々な活動を行っており積極的に発信できている。 「ふるさと大好き」93.4% 「貢献している」89.0% □「探究大好き」80.3%であり学年によって差がある。	3	3	・これまでの取組を進めるとともにカリキュラムの課題を見直し修正する。 ・一人学びと協働の学びを進め、更に異学年で交流し互いに学び合う。					

3